

Luncheon Linguistics, 9 June, 2021

2021（令和3）年6月9日

「パピアメント語に接続法があるのか」

発表者：パトリシオ バレラ アルミロン（東京外国語大学大学院博士後期課程）

本発表ではパピアメント語には接続法が存在しないことを主張した。パピアメント語には TAM（テンス・アスペクト・モダリティ）を表す TAM 標識が幅広い文脈において動詞の前に用いられる。先行研究には従属節において接続法を表すゼロ標識の存在を主張するものが見られる。この接続法の意味は [-assertive, -temporal] だとされている。この主張には3つの大きな問題点がある。

1つ目は、パピアメント語には「直説法」・「接続法」の体系的な対立がなく、「非現実」を表す形式のみが有標であり、「現実」が無標であるという点である。

2つ目は、ゼロ標識が非現実を表すとみなしても、非現実を表す *lo* という TAM 標識がすでに存在し、ゼロ形式より広い文脈において用いられうる点である。

3つ目は、*lo* がほかの TAM 標識とは異なる統語的位置に現れること、ゼロ標識を *lo* とは異なる非現実を表す要素であると認めても、2か所においてほかの TAM 標識と対立していると言わざるをえないという点である。つまり、2つのゼロ標識を立てなければならない。

以上の3つの理由からパピアメント語には接続法のゼロ標識が存在しないと主張できる。